

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2029号 2010年08月2日(月)

《 unusual uncertainty in Japanese politics 》

今週は、日本の国会が衆参で予算委員会を開くなど本格稼働するが、その先行きは先週のバーナンキの言葉「unusually uncertain」をもじれば、「unusual uncertainty」の中での始まりと言えるだろ。

参議院選挙で惨敗した民主党の菅首相が、臨時国会招集の日に異例とは言え記者会見をしたところまでは、私も良かったと思う。選挙後、ほとんど内容のある話を国民に向かってしていなかったわけで、私もテレビ、ラジオで「国民に説明すべきだ」と言っていたから、それ自体は良かったと思う。しかし、その記者会見の内容は全く“信念”を感じないものだった。選挙戦に拳を挙げて熱弁をふるっていた頃とは全くの様変わりだった。

発言はぶれたが、それでも覚悟を持って選挙戦に消費税引き上げを持ち出したのだと思ったら（付け焼き刃の知識ではあったが）、記者会見ではあっさりと「9月の代表戦の論点にはしない」と撤退宣言。その程度の覚悟だったら、最初から選挙戦に消費税引き上げを持ち出さなければ良かったのに、と国民の多くも思ったに違いない。実際は「消費税引き上げを持ち出した」ことが敗因ではなく、消費税に関する発言がぶれたこと、特に税還付の水準の数字をいくつも出してしまったことに問題があったと思うのだが、今度は消費税の問題全体を当面引っ込めるといふ。また先送りだし、国民に「日本の政治の迷走」を強く印象づけた。

そうかと思ったら、菅総理大臣が一旦「格下げする」言った国家戦略室について、世論の批判もあったからだろうが、「みんなの党の支持次第では、今度は“局”に格上げする可能性がある」と枝野幹事長が言明。それにしても迷走している。参議院では委員会も全部の委員会で少数派に陥った民主党は、参議院では「みんなの党」に、衆議院では共産党の支持を当てにしているようだ。しかし連立ではない。先行きは全くの不透明だ。民主党は衆議院では三分の二に12議席足りないから、単独では衆議院での再議決での法案通過も出来ない。

先週開かれた民主党の両院議員総会は、そうした日本の政治の混迷状況をどう乗り切るかが議題になると思っていたら、「誰の責任か」「執行部の責任いかに」に終始して、「今後どうするか」の話は全くなかった。しかも、小沢前幹事長や前原国土交通大臣は欠席した。前原大臣は、有名人同士の結婚式に出席のためだった。

今こそ日本は「政治の知恵」が必要なときなのに、与野党両方からそれが出てくる気配が全くない。非常に残念だが、アイデアはなくても時間は過ぎる。日本の政治は懸念されたとおり、「停滞と混迷の極」のような展開だが、これは参議院選挙以降の日本の市場の低迷に拍車をかけるだろう。本来なら円安要因だが、「無策故に円高になってしまう」という構図が今は見える。円高圧力が残る間は、株の上値追いも厳しい状況だ。

《 dollar under pressure 》

先週の金曜日に発表された米第二四半期 GDP 統計は、『米企業は業績が好調なのに雇用を増やしていないということか。そうではない。おそらく、米企業はグローバルには雇用を増やしているのだろう。しかし、「途上国とクラウド」で業績が良い（米 IT 企業）というのなら、もしかしたらインドで雇用を増やしているのかもしれない。米企業業績好調のアメリカ経済への雇用増波及度は以前に比べて明らかに落ちている、ということになる』と前回書いたことを裏書きするような内容だった。

成長率は2.4%で、大方の予想だった2.5%を僅かに下回っただけ。しかし株式市場の反応は、当初は“失望”だった。米経済の7割を占める個人消費が1.6%の伸びにとどまり、「米経済のエンジンがまだ点火していない」ことが明らかになったためだ。筆者の見方では、この米消費の低迷はあれだけの混乱を経た後の動きとしては十分納得がいくのだが、市場はせっかちだ。消費低迷を受けて、エコノミストの間では今年下半期の米経済成長率を引き下げる動きが出ていた。

最近の米 GDP 統計の動きを見ると、明らかにモメンタムを失っている。改訂統計によると、昨年第4四半期は5.0%、今年第1四半期は3.7%、そして第2四半期は2.4%の各伸びだ。明らかにダウントレンドになっている。もっとも、設備投資などで見る企業活動が活発なので、「懸念された二番底はないのでは」(FT)と言った見方もある。

実際の所、米企業収益は好調で先週木曜日段階でSP 500の企業の70%が決算を発表しているが、それによれば米企業はわずか9%の売り上げ増加で、対前年同期比で4.2%もの増益になっている。米企業は好調だが、米経済本体は「deeper recession, slower recovery」(ウォール・ストリート・ジャーナル)という表現が正しいことは確かで、これが継続的なドル売り圧力になっている。先週はドル・円は一時85円台を記録した。ドル安圧力は市場で当分残るものと予想される。

今週の主な予定は以下の通り。

8月2日(月)

衆議院予算委員会(3日まで)

7月新車販売台数

米7月ISM製造業景気指数

米6月建設支出

中国7月HSBC製造業PMI

	インド6月貿易収支 カナダ市場休場
8月3日(火)	米6月個人所得・支出 米6月製造業受注 米6月中古住宅販売 米7月国内自動車販売
8月4日(水)	豪8月政策金利決定 参議院予算委員会(5日まで) 米7月ADP雇用統計 米7月ISM非製造業景況指数 英中銀金融政策委員会(5日まで) ユーロ圏6月小売売上高
8月5日(木)	7月オフィス空室率 米7月チェーンストア売上高 ECB理事会
8月6日(金)	6月景気動向指数(速報) 米7月雇用統計

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。金曜日は涼しかったのですが、土日はまた暑かった。暑さを避けるために、土曜日は富士山麓にゴルフに行ったのですが、早朝鹿と遭遇。本当にびっくりしました。

朝一スタートだったので、中央高速河口湖線から富士スバルラインを走って、もう少しでゴルフ場に到着かと思った午前7時15分頃です。突然右手から鹿が出てきた。白い斑点が鮮やかな、一見子鹿に見えた。気付いたときには、もう目の前だったのです。カーブを曲がって、あと300メートルもすればゴルフ場入り口という場所なので、スピードは出していなかった。せいぜい時速30キロくらい。しかし「あ、鹿だ」と思ったときには、多分鹿は私の車の1メートルくらい前だった。

ブレーキをかけようと思ったのですが、実際にかかったのかどうかは記憶にない。「あ、通過してくれる」と思った瞬間に、あまり大きな音ではなく「ゴツン」という音がした。「ありゃ」と思って、直ぐに車を止めて、「鹿さん、大丈夫だろうか」と思って、車をバックさせたのです。しかしどう探しても、そこには鹿の姿はなかった。

だから、臀部打撲くらいで鹿は走り去ったと考えました。自分の車の左前を見ると、へこんでもなにもなっていないし、傷もない。ということは、痛いだろうけど、そこに倒れ込むほどではなかったということです。まあ良かった。ゴルフ場に行ってそのことを支配人に話すと、「うちの社員も6~7人やられてます」と。「やられてる」とはどう

ということかと思ったら、ぶつかって車が傷ついたと言うことを言っているようで、そこに居た社員の一人は、「私は修理に16万も払いました」と。

私がむしろ気になったのは「あの鹿がどうなったのか」だったのですが。富士山麓は鹿が出没するんだと改めて思いました。鹿には屋久島でしばしば遭遇していますが、屋久島の鹿は道を横切ったりはしなかった。私の前では。北海道などでも鹿が交通事故に遭うケースは多いんでしょうね。道路を走っていると「動物注意」とは書いてありますが、あれが高速道路だったらちょっと怖かっただろうな、と思う。低速の一般道路だから、落ち着いていられた。惜しむらくは急ブレーキがかけられて、鹿の臀部であってもヒットしなかったら良かったのですが。

私の先輩には、「道路で大きな鹿に併走された」という人も居る。その人の話によると、その鹿は相当大きかったらしいので、仮に富士山麓に一種類の鹿しか生息していないとしたら、私の車の前に現れたのは子鹿です。これをお読みの皆さん、富士山麓では鹿に気をつけましょう。

ということで、皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》